

令和3年度 障がい者総合サポートセンターの 取り組み状況について

1 事業所訪問による情報交換

- ・ 現状把握
- ・ 課題整理
- ・ イベントに関する周知
- ・ 顔の見える関係性の継続

2 精神障がいピアサポートキックオフイベント

- ・ 区内精神系事業所(地活・就B)を対象としたピアサポートに関するアンケート(支援者・利用者)をもとに、計画
- ・ 新型コロナ感染拡大防止の観点よりオンライン型と集合型の2回開催
- ・ 講義、リカバリーストーリー(本人の生きざまの語り)グループワークの組立

ピアサポートに関するアンケート (令和元年度実施)

区内地域活動支援
センター
7事業所

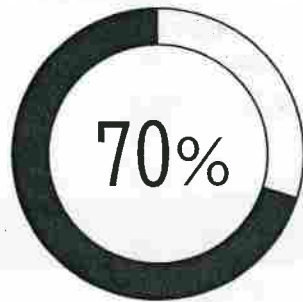
区内就労継続支援
B型事業所
13事業所

当事者向け
回収207名

支援者向け
回収60名

※同法人含む

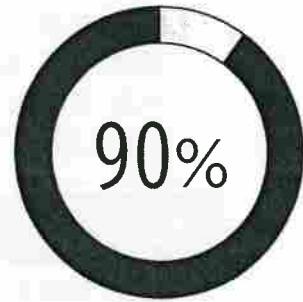
ピアサポーターを知っていますか？



知っている 知らない・分からない

回答者:計267名
(うち当事者207名、支援者60名)

ピアサポート活動について



活動したい 分からない

回答者:当事者207名



まずはピアサポートについて知ってもらい、 興味を持ってもらいたい！！

精神障がいのある方だけでなく、支援者・家族等様々な属性の方が、ともに「ピアサポート」について学ぶことにより、理解啓発を図る。

参加者が「対等な立場」で受講することを前提とし、場を体感しながら学びの中で、自身のリカバリーやストレングスに気づき、自らの可能性を獲得してもらう。

以上の2点を目的にキックオフイベント開催

開催方法と詳細について

オンライン型

- ・ 日程: 令和3年11月15日(月曜日)
- ・ 時間: 午後1時30分から4時00分
- ・ 対象: 区内事業所当事者及び支援者
- ・ 参加人数: 31名

集合型

- ・ 日程: 令和3年11月29日(月曜日)
- ・ 時間: 午後1時30分から4時00分
- ・ 対象: 区内在住・在勤の方、精神障がいのある方またそのご家族、支援者、医療関係者
- ・ 参加人数: 30名

令和3年度大田区
精神障がい

ピアサポート キックオフイベント

障害のある人もないひとも「対等な関係・仲間」として
つながり、地域や社会・生活の中で、ともに支え合っ
ていく「ピアサポート」について一緒に学びましょう！

日程 令和3年11月29日(月)

時間 13時30分から16時00分
(受付:13時15分より)

場所 大田区新井宿特別出張所3階
大田区中央1丁目21番6号

定員

40名程度

(先着順)

※参加費無料

対象者

ピアサポートに興味の
ある大田区在住・在勤
在学・及び区内の
事業所・団体に
登録のある
当事者、また支援者

キックオフイベントのプログラム
(予定) ※休憩は適宜お取りください。

13:30 開会
13:40 講演①
14:00 リカバリーストーリー発表
14:30 休憩
14:40 講演②
15:30 グループワーク
16:00 閉会

あいかわ あやこ

講師 相川 章子 先生

学校法人 聖学院大学
心理福祉学部心理福祉学科 教授

日本、また海外のピアサポート、ピアスタッフに関する調査や研究、講座等に携わる。

1993(平成5)年琉球大学医学部保健学科卒業。1996(平成8)年淑徳大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。2011(平成23)年博士(人間学/大正大学)取得。国立精神・神経センター精神保健研究所研修生(デイ・ケア非常勤スタッフ)、都内保健所グループワーカー(非常勤)、やどかりの里(非常勤)等を経て、精神障害者通所授産施設またたびの家、グループホームめぐ、地域生活支援センターMOTTA、世田谷区就労障がい者支援センター(非常勤)、さいたま赤十字看護専門学校学生相談(非常勤)等にソーシャルワーカーとして勤務、『精神障がいピアサポーター 活動の実際と効果的な養成・育成プログラム』より

申込方法は、裏面申込書をご活用ください。

※この前修は、ピアサポートを知りたがったりすることを目指してのイベントです。

(11月15日、11月29日)イベント実施アンケートより…

この企画は、とてもよかったです。経験の語り合いが安心感を生むのでは…

体験談（リカバリー）が聞けて、とても有意義でした。またこんな企画を是非に！
リカバリーストーリーをシェアすることは、ピアを勇気づけ1歩前進させることが1番
の人業であると思った。

キックオフイベントのこと、この後、講習が続くコースだと思っていました。ピアサ
ポートの基礎を知ることができました。皆、リカバリーの途中、大丈夫だという気持ち
を持ってました。

長時間無言でじーっとして疲れました。（web）



アンケート結果を参考に、今後の取組を検討していく。